



大学教育レベルにふさわしい 英語力の評価について

公益財団法人 日本英語検定協会 調査研究報告より

2014/6/4
吉田 研作

1

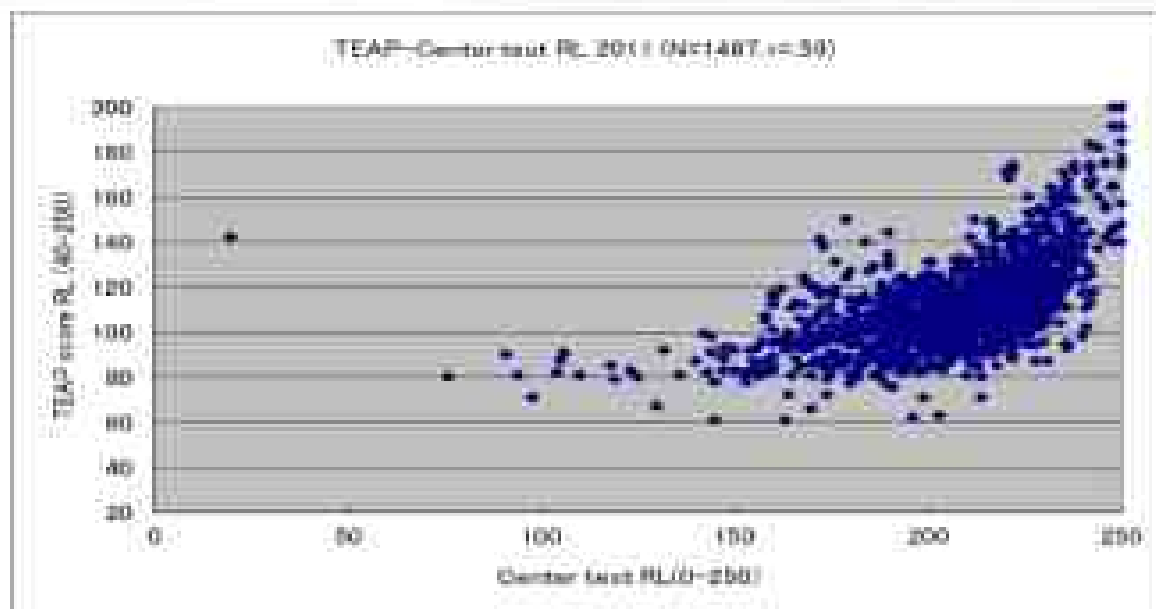
TEAP開発の趣旨

主に高校3年生を対象とした**大学入試**を想定して開発されております。

テスト構成は日本というEFLという環境の中で、「大学教育レベルにふさわしい英語力」を測るうえで適切な設計となっており、テスト内容はすべて大学教育（留学も含む）で遭遇する場面を考慮して作成されております。

難易度の目安としては、**英検準2級～準1級程度**で、**日本の高校3年生の英語を測定するのに最適なレベル**となっております。

① TEAP-センター試験比較調査



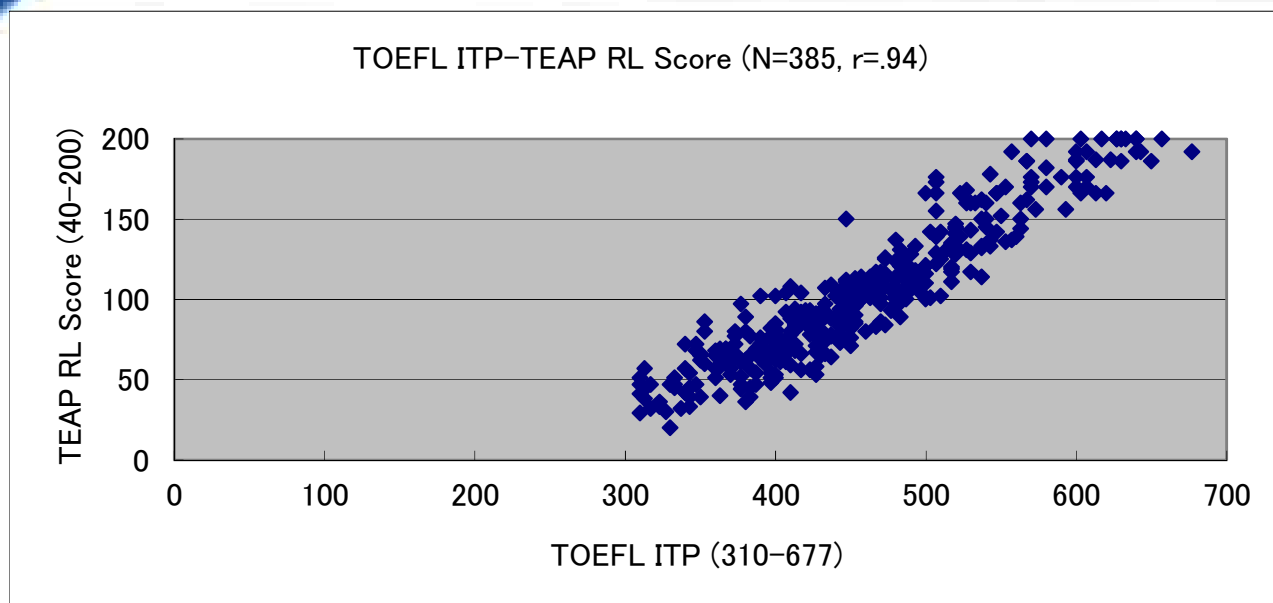
	度数	最少値	最大値	平均	標準偏差
TEAP RL	1487	61	200	111.91	18.31
Center RL	1487	20	250	207.64	22.86

Center RL	TEAP RL
250	130
200	112
150	96
100	79
50	62
0	45

センター試験H26
全国平均は150点程度

概要：2011年4月に大学1年生がTEAP Reading/Listeningを受験した際にアンケートでセンター試験のスコアに関するデータを取得し分析。

センター試験で満点でも受験生のTEAPスコアがばらつく(140~200点)。
⇒TEAP RLの方がセンター試験よりも難しい⇨この学力層を識別するには優れている。

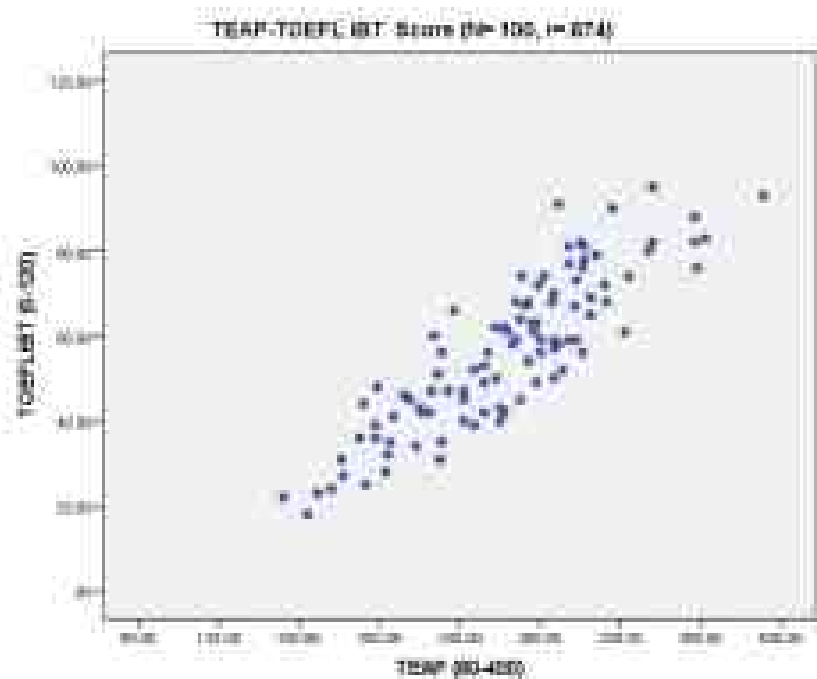


CEFR	TEAP RL total	TOEFL ITP total
C1	200	621
	190	604
B2	180	587
	170	570
B1	160	553
	150	536
	140	519
	130	502
	120	485
	110	468
	100	451

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
TEAP RL	385	20	200	102.32	42.9
TOEFL ITP	385	310	677	455.68	79.24

概要：2009年12月に高校3年生がTEAP Reading/Listeningを受験した際、彼らが事前に受験したTOEFL ITP^(R)得点をScore Reportから取得し分析を行った。
 TEAPスコアが200点満点前後でTOEFL ITP^(R)で約600点前後
 ⇒大学入試としてはTEAP RLの方がTOEFL ITP^(R)よりも易しい⇨取り組みやすい。

③ TEAP-TOEFL iBT[®] 比較調査



EIKEN Grade	CEFR	TOEFL [®] score		TEAP
		PBT	iBT	
1	C1	600	100	396
Pre-1	B2	550	80	334
2A	B1+	500	61	276
2	B1	450	45	226
Pre-2	A2	400	32	186

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
TEAP	100	152	391	263.1	48.15
TOEFLiBT	100	18	95	56.46	17.87

概要：2013年12月に大学1,2年生が4技能を受験した際に、彼らが事前・事後で受験したTOEFL iBT[®] 得点をScore Reportから取得し分析を行った。

TEAPで満点(400点)近くをとるとTOEFL iBTでは100点程度(120点満点)
 ⇒4技能テスト間においても大学入試としてはTEAPの方がTOEFL iBTよりも
 易しい⇨取り組みやすい

5

TEAPと外部指標との関連性（継続調査中）

EIKEN Grade	CEFR	TOEFL [®] score		TEAP
		PBT	iBT	
1	C1	600	100	396
Pre-1	B2	550	80	334
2A	B1+	500	61	276
2	B1	450	45	226
Pre-2	A2	400	32	186
3	A1			
4				
5				

Center RL	TEAP RL
250	130
200	112
150	96
100	79
50	62
0	45

CEFR	英検	TEAP Reading	TEAP Listening	TOEFL ITP total	TOEFL iBT total
B2	準1級	81	83	550	80
B1	2級	49	51	450	45
A2	準2級	33	35	350	20